

## (2) 平成 24 年度地区別研修会報告 ー神戸・淡路地区ー 第 2 回 ICT エデュケーショナルフォーラム

島田 融

神戸市立神港高等学校・教諭

### 【要約】

今回、第 2 回目となる ICT エデュケーショナルフォーラムでは、医療現場における情報システム並びにデータベースの活用、そして、情報を分かりやすく表現するためのプレゼンテーションについての最新動向を学び、新学習指導要領で設置される共通教科科目「社会と情報」及び専門教科科目「データベース」の指導内容に関連したテーマを設定した。

### 【キーワード】

医療研究分野の情報システム、医療社会とデータベース、プレゼンテーション技術とコミュニケーション

### 1. 開催日時・場所

- ・平成 24 年 8 月 21 日 (火) 14:30~17:00
- ・神戸市立新長田勤労市民センター別館  
ピフレホール会議室A

### 3. 参加人数

講演者を除く 32名

### 2. 開催日程

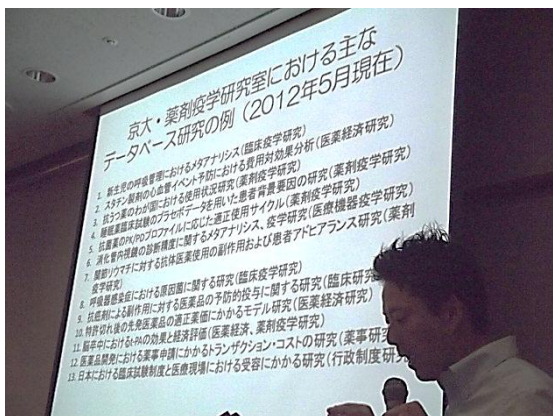
- ①開会挨拶 14:30~14:35  
情報部会会長 難波 宏司  
(兵庫県立西宮今津高等学校長)
- ②講演 I 14:00~15:50  
演題:「データベースを用いた研究と医療、  
政策」  
講師:川上 浩司 氏  
(京都大学大学院医学研究科教授)
- ③講演 II 15:55~16:55  
演題:「TEDから学ぶ、これからのプレゼ  
ンテーション」  
講師:橋本 祐樹 氏  
(TEDxOsaka Co-founder)
- ④閉会挨拶 16:55~17:00  
情報部会副会長 井町 豊志  
(神戸市立神戸工科高等学校長)
- [司会] 坂井 貴行  
(兵庫県立武庫荘総合高等学校)
- [講師紹介] 島田 融  
(神戸市立神港高等学校)

### 4. 講演概要 (I)

医薬品の開発や評価の研究、世界各国の医療社会システムについてお詳しい川上浩司先生は、日本の医薬品・医療機器の研究開発投資のバリューチェーンについての問題点と、疫学研究の基盤について重要性について最初に説明し、医薬品・医療機器の開発の中で、国際的な潮流となっているヘルステクノロジーアセスメント (HTA: Health Technology Assessment) のうち比較効用分析 (費用対効果) をどのように考えるか、また薬事規制の環境をどのように勘案するか、について世界情勢を紹介しながらその方向性について解説されました。



また、医療政策で薬剤経済学的評価を利用して  
いる国の事例や、京都大学疫学研究室における主  
なデータベース研究の事例を紹介されました。最  
後に、今後の病院マネジメントや国の社会保障政  
策・情報管理システムの在り方、京都大学での人  
材育成活動について解説されました。先進的な研  
究をされている川上先生のお話は、今後日本の医  
療社会のあり方について考えていくためのヒント  
が多く含まれている内容でした。



## 5. 講演概要 (II)

年齢 20 代の若さで TED<sup>®</sup>Osaka を創設した橋  
本祐樹氏は、最初にアメリカに本拠地を置いて活  
動を行っている非営利団体 TED (Technology  
Entertainment Design) とはどんな組織かを、  
TED カンファレンスや TED<sup>®</sup>で行われた世界の  
卓越した研究者や実業家、学生たちの 18 分のプ  
レゼントークの一部を紹介しながら解説しました。  
特に TED で行われるプレゼンテーションスタイル  
の特徴について説明しながら、世界で通用する  
最も効果的なプレゼンテーションのテクニックを  
解説しました。特にシンプルなプレゼンコンテ  
ンツによるコミュニケーション展開の重要性を強調  
されました。また、2012 年 4 月 28 日大阪市住  
之江区南港北にある「ホテルコスモスクエア 国  
際交流センター」で開催された TED<sup>®</sup>Osaka イベント  
の様相を紹介し、“Ideas Worth reading(広める  
価値のあるアイデア)” の精神のもと開催されて  
いるプレゼントークに関心のある方は、ぜひ参加  
ご協力をお願いしたいとのお話がありました。



## 6. 研修会を終えて

2012 年 10 月、京都大学の山中伸弥教授がノー  
ベル医学・生理学賞の受賞が決まりました。これ  
を機にライフ・イノベーションの一環として再生  
医療の推進がより一層強くなるとともに、これに  
伴って医療情報システムに関する高度化に関する  
論議が活発になると考えられます。また、今まで  
にないグローバルな研究活動や人材育成のための  
学びのイノベーションが進行すると思われます。  
また、その活動や取り組みの中で行われるコミュ  
ニケーション活動のあり方は、各個人にとりまし  
ても大きな関心事となります。学校施設や指導体  
制のレベルにおきましても、円滑なコミュニケー  
ション活動ができる環境整備が課題となることで  
しょう。高校情報科教育の独自性をより明確化す  
るにあたっては、様々な社会主体との社会連携教  
育をより充実させながら、試行錯誤していくこと  
になると考えられます。